

## 2020年3月期 通期決算に関する主なご質問

- Q: 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で今後の需要見通しが読みにくいのは理解するが、過去のリーマンショックや欧州債務危機の頃には欧州で大規模なリストラを実施した。その時と比べて今の状況に違いはあるのか？
- A: 当社の当面の方針としては、足元でキャッシュの支出を極力抑え、コスト削減を図り操業を最適化すること、加えてノンコア資産の売却なども行う予定です。以前の危機の時期には欧州で30%以上の需要が消失したため、かなり大きなリストラを実施しました。今回はCOVID-19の影響度はまだ不透明ですので、当面は低稼働ながら最適な生産体制を作り、柔軟な対応を行っていきます。しかしながら、今後の需要動向に注視して本格的なリストラの必要性がある場合は、判断していきたいと考えます。一方で、従来より課題と認識してきた建築用ガラス事業のアジアでは、今回、千葉およびマレーシアの窯の休止を決定しました。
- Q: 欧州などの自動車用ガラス事業でのれん、無形資産の減損を計上したが、どういう前提で行ったのか？また建築用ガラス事業は減損の必要はないのか？
- A: 今回の減損計上のかかなりの部分が欧州地域です。COVID-19以前に作成した中長期計画に対して、COVID-19による影響を加え、外部機関の見通しなども加味して、計上資産とのギャップを調整した結果、減損が必要と判断しました。欧州は以前から自動車生産台数がかかなり低下していましたが、さらに不確実性が高まったことを反映しています。建築用ガラス事業ののれん、無形資産についても減損テストを実施しましたが、減損の必要はありませんでした。
- Q: 太陽電池パネル用ガラスの売上は好調とのことだが、今期はどの程度増えるのか？
- A: 太陽電池パネル用ガラスの売上は建築用ガラス事業の1割強を占めていますが、現在はベトナムの新窯も稼働し、フル稼働となっています。今期の数量は10%以上増えると見込んでいますが、COVID-19の影響も若干は受けていますので、見通しについてはやや慎重にみています。
- Q: 今後の追加改善策とはどのようなものか？金額レベルは？
- A: まずは固定費削減に取り組み、損益分岐点を引き下げること、VA化により利益率を上げることに取り組みます。その他にも、ノンコア資産の売却など、あらゆるオプションを実行し、まずは当期利益を出せるように改善していきたいと考えています。コストダウン効果はCOVID-19影響の程度にもよるため何とも言えませんが、5月以降、需要が徐々に改善する中で、改善の効果を出していきたいと考えています。
- Q: A種種類株式の転換制限が前倒しで解除されたが、今後の償還計画は？
- A: 当初の想定であった本年7月から約1か月ほど前倒しになりましたが、転換価格は846.5円と、現状の株価水準よりも高いため、すぐに転換が発生するとは考えにくいと認識しています。今まで期間利益を計上する中で合計100億円の一部償還を実施しました。今すぐに追加の償還を行うのは厳しいですが、従来通り期間利益を出す中で、なるべく早期の償還を目指していきたいとの方針は変わりません。

以上

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市況、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。